

日本漢方協会通信—①

2022年11月

日本薬剤師会学術大会

第55回日本薬剤師会学術大会が10月9日と10日に仙台国際センターで行われました。薬局製剤と、漢方に関する口頭発表の報告をいたします。

●東京都におけるセルフケア・セルフメディケーションを支援する薬局の相談体制の現状

薬局と健康サポート薬局と健康サポート薬剤師はいるが健康サポート薬局にはなっていない薬局の3者の現状調査の報告をした。服薬指導では有意差は少なかったが生活指導では差があったが、漢方薬局はサポート薬局と差がなかった

●動物への漢方治療:日台比較からみる普及の可能性

台湾では動物用漢方薬が沢山使われて今後日本でも広まってくるのではという発表であった。保険薬局の薬剤師には驚きであったようだった
効能効果に書かれていないことに対する疑問が出ていた。
⇒日本漢方協会でも取り入れたと思った

●含量規格から外れた感冒剤3号

A

東京都薬剤会の検査室での報告で成分含量の多いものと少ないものが同一検体であった。混和ができていないのではないかと
⇒粉末調剤ではv字の溝に落としてゆくので一包では成分が入っ

ていても その一部分を採取すると成分にバラツキが出た可能性がある。薬局製剤では、年齢によって半分とか1/3 とあるので混和が必要になる

●薬局製剤UHクリーム 溶融法による作成

基剤である親水クリームの作成時に尿素を加えて作るという方法であくまでも実験であるという発表。

⇒製造承認を逸脱している。親水クリームは承認がいない局方品。軟膏ベラで練る必要がなくなる。

このセッションからは薬局製剤の認識が低いことを危惧
都薬 日薬など講習会を行っている

⇒日本漢方協会の講座でも行っている

三上記